# 第22回(2019年度)「七十七ビジネス大賞」贈呈先

## ○企業の概要

企 業 名:株式会社深松組

代 表 者:代表取締役社長 深松 努

住 所:宮城県仙台市青葉区北山1丁目2-15

設 立 年:1953年(創業 1925年)

業 種:総合建設業、不動産賃貸・取引業

資本金:93百万円従業員数:122名

## ○事業の概要

当社は1925年創業の歴史ある総合建設業であり、長年にわたり地元宮城県を中心に土木・建築工事を数多く実施しているほか、不動産賃貸業や再生可能エネルギー事業、海外でのサービスアパートメント事業、沖縄県におけるリゾート事業など、社会課題や震災復興需要減退後の建設分野の落込みを見据えた幅広い事業を展開。

## ○受賞の理由

当社の事業拠点は宮城県の本社のほか、富山県、新潟県に営業所を構え、東北地方を中心に活動している。地元宮城県における当社の土木・建築工事実績は数多く、河川工事や橋梁工事、公共施設建設など多岐にわたり、地域の社会資本整備の発展に尽力してきた。事業の多角化として、再生可能エネルギー事業やリゾート施設賃貸業、海外でのアパートメント事業など幅広い事業を展開しているほか、環境保全活動や地域防災パトロールなどの社会貢献活動にも積極的に取組んでいる。「地域にとって本当に必要とされる企業」を目指し、時代の変遷とともに、将来を見据えた事業展開は高く評価できる。

東日本大震災の際には、がれき撤去のほか、道路・堤防等のインフラや公共・民間建築物の 復旧に率先して取組んだほか、経営者自身が、震災の実体験や復興需要の現状などの講演を数 多く行っており、防災意識の醸成に大きく貢献した。近年では、被災沿岸部の再生と交流人口 拡大を目指す目的として、仙台市が進める震災復興事業である「仙台市東部沿岸部の集団移転 跡地の利活用事業者」に参画、若林区藤塚地区において複合温泉施設「アクアイグニス仙台」 の計画を進めており、被災地域に対する貢献度は大きい。

また今後の震災復興需要減退を見据え、沖縄でのリゾートホテル事業を展開。沖縄伊良部島近隣では、空港旅客ターミナルの開業で観光客数の増加が期待されており、建設業の人手不足も続くことから、東北からの人材を送り込むなど、震災復興需要が落ち着いた後の地域の雇用の確保にもつながるものと期待されている。

土木、建築、不動産賃貸、自然エネルギー、海外事業、農業の6つの事業への多角化は、これからの修繕維持時代を乗り越えるための取組みであり、より高度な視点で社会地域への責務を果たしていくものである。当社の長年にわたる地域経済への貢献と、時代のニーズに即した積極的な事業展開は、県内を代表する総合建設業として今後更なる成長・発展が期待される。

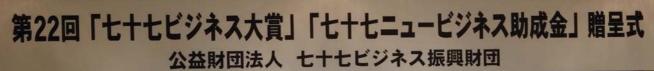
以上

賞状

その功績はまことに顕著なものが 貴社は永年にわたり宮城県内の 七十七ビジネス大賞を贈ります 産業・経済の発展に寄与され よってここにその栄誉をたたえ あります 七十七ビジネス大賞 株式会社深松組 代表取締役社長 深松 努樣

二〇一九 年十一月一六日

公益財団法人七十七ビジネス振興財団 代表理事 鎌 田







#### 2019年11月27日 河北新報掲載

業 50万円 のケデ 設業の深松組 内の産業発展に貢献した企 (仙台市) -七ビジネス大賞 団体に贈る本年度の七 イカカ は26日、 (仙台市) 金属製品製造 同 (奨励金 を選ん 宮城県 と建

常務 賞状を受け取るケディカの三浦 台 あった。

ら社に決めた。

4回目の今回は大賞に7

助成金に42件の応募が

手渡, だ。 宏代表理事が賞状と目録を 贈呈式があり、 仙台市青葉区のホテルで した。 財団の鎌田

ジネス

大賞

力

な

七ビジネス振興財団

七十七振興財団

成 は 市 料品製造のファイトケム も報いたい」と語った。 品用資材卸売りの青葉化 中から頂いた恩にこれから った。 品を作ってきた」と胸を張 軽減し付加価値を高める製 浦直暁常務は「環境負荷を 品を手掛けるケディカの三 アキウツ・ 00万円) フロダクツ イスリー ニュービジネス助成金 新規事業が対象の七十 メッキなどの表面処理製 「東日本大震災後に世界 地域プロデュース業の ブル 防災備蓄食製造のワ 深松組の深松努社長 -リズムファク ロジェクツ の交付先は、 トウエア業のバ (多賀城市 いずれも仙台 食